

第202話 俳諧⑮ 俳諧歌枕と俳諧発句 その5 中山町 歴史散策

平成12年に石沢家に残された文書の中から発見された「俳諧発句」なる句書の裏表紙に「天明七末年 鈴木蝶宇蔵書」とあるということは、先月号に記載したとおりです。

また、この俳諧写本には序文にも、五竹坊が書いています。

年号は、「安永3年ノ夏」とあって、1774年のことであるので、幾人かの手を経て、ほぼ10年後に鈴木蝶宇がこの句書を手に入れたことになります。写し間違ひも多く、意味の疎通を欠くところがあつて、序文の掲載は控えますが、恐らく出羽国より伊勢参詣の折、美濃の獅子庵に立ち寄った人が受領したものであろうと考えられます。

この鈴木蝶宇という人は、寛政4年（1792年）、白山神社に俳額を奉納した7人の筆頭願主です。この俳額には、地名のみを示した俳人の60句が収められています。残念ながら願主で句を詠まなかったためか、俳額に、作品と蝶宇の名前はあり

ません。いずれにせよ、鈴木蝶宇も金沢界限では名の知られた人物であつたでしょうし、どの

ような理由で石沢家に渡ったのか、幕末の長崎の俳諧事情を語る資料となるものです。

さて、これまで15回にもわたって俳諧を中心に話を進めてきましたが、次号からは俳額をテーマにしてまいります。

【語句の説明】

五竹坊…田中五竹坊のこと。元禄13年生まれ。医業のかたわら、美濃派の仙石蘆元坊に俳諧を学び、獅子門4代を継ぐ。安永の頃に門下の安田以哉坊と対立し、美濃派は分裂した。

願主…善根功德を積もうという願いで、仏像や仏寺を建立したり、經典や法衣の供養などを発願した本人のこと。

俳額…発起人が広く投句を呼びかけ、選者が選んで数十句を板に並べて書いたもの。神社などに奉納される。

※引用 中山町史 中巻

第10章第3節

文芸と美術工芸

私たち地域おこし協力隊です！ No.68

皆さん、ごきげんよう！地域おこし協力隊の阿部美恵子です。

着任して初めての春を迎え、楽しみにしていた町内の桜のイベントを堪能しました。夜のライトアップでは大勢の若いご家族連れや学生さんたちがワイワイ賑やかにしている姿を見て中山町の未来を担う方々なんだろうな～と微笑ましく思いました。

還暦になって单身中山町に移住してきた私から次世代に伝えたいことは『ダメ元の精神で色々チャレンジし失敗や楽しい経験をたくさん積んで欲しい』です。今でも私は夜寝る前に今日やり残したことはないか？と振り返ります。そして「あ～楽しかった」と言って眠ります。人生後悔しない毎日を送っている私は根っからの自由人だけど、栃木に住む家族に見放されているわけではないですよ(笑)

中山町で次にかぶくんに会えるのは『全国かぶと虫相撲大会』ですね。かぶくんファンと会えるかな～楽しみ～!!

5月も毎週火曜日に『旧〇っと』をお借りして、私と皆さんとの交流の場として滞在しています。商品の試作も行っているのので、ぜひ試食に来てくださいね。

●協力隊への問い合わせ先● 阿部 ☎662-4271（総合政策課）



阿部美恵子

出身地：栃木県鹿沼市
趣味：高校野球観戦



美しい月山の姿